

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所モンキーポッド輪		
○保護者評価実施期間	令和8年1月19日	～	令和8年3月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日	～	令和8年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づく個別に合わせた療育の提供	詳細なアセスメントを実施し、児童一人ひとりの特性や発達段階に合わせた具体的な目標を設定しています。職員間での情報共有を徹底し、一貫性のある支援を実践しています。	モニタリングの頻度や精度をさらに高め、児童の微細な成長をより速やかに支援計画の見直しや日々の活動に反映させる体制を強化します。
2	保護者との信頼関係と密な連携	送迎時の対面による報告や連絡、SNSでの活動発信を通じ、家庭と事業所での様子を相互に共有しています。些細な悩みにも寄り添う丁寧な相談対応を意識しています。	保護者のニーズをより深く汲み取るため、定期的な面談機会の充実に加え、家庭で取り入れられる療育の工夫などの情報提供も広がっていきます。
3	安全・安心で構造化された環境整備	児童が混乱せず活動に集中できるよう、室内のレイアウトや視覚的な掲示を工夫しています。また、安全マニュアルの遵守や避難訓練の実施により、安全管理を徹底しています。	ヒヤリハット事例の収集・分析をさらに強化し、未然防止の視点を養う内部研修を継続することで、より高度な安全・安心の確保を目指します。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報公表・結果周知の徹底不足	SNS等での発信は行っているものの、自己評価結果等の重要事項の周知方法が一部の保護者に十分に届ききっていない可能性があります。	公表方法を多角化（書面配布、事業所内掲示の強化など）し、全ての保護者が確実に情報を確認できるような周知体制へと改善します。
2	地域資源・外部機関との連携の広がり	日々の直接支援業務を優先するあまり、学校や他の相談支援事業所等の外部関係機関との積極的なネットワーク構築が限定的になっています。	関係機関との連絡会議への積極的な参加や、地域コミュニティとの接点を増やす機会を設け、多角的な支援体制の構築を推進します。
3	多様化する支援ニーズへの専門性のさらなる深化	児童一人ひとりの特性や課題がより多角化する中で、常に最新の知見や療育手法をアップデートし続け、より高度な支援を提供し続ける必要がある。	外部研修への参加機会をさらに確保するとともに、所内での事例検討会を充実させ、職員が互いの経験を共有し合い、より専門性を発揮しやすい環境を整える。